

九州女子大学
家政学部 人間生活学科

平成31年度 一般推薦入学試験
技能特待生入学試験
小論文

九州女子大学 家政学部 人間生活学科

平成31年度 一般推薦入学試験・技能特待生入学試験

小論文 試験問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「たけくらべ」

樋口一葉の「たけくらべ」は、子ども時代の終わりにいる少年少女の微妙な心理を描いた不朽の名作。舞台は吉原かいわいという設定で、遊郭の影響を受けた土地のせいか表町の子も横町の子も早熟だがその分、大人世界のとば口に立たされたときの悩みも深い。

果たして自分たちは大人なのか子どもなのか。民法改正により2022年4月から成人年齢が18歳に引き下げられる。一葉作品に登場する美登利、信如らと同じように大人、子どもの端境期にいる今の17、18歳の悩みも案外深いらしい。

県内の高校生、大学生が物品購入などを巡る消費者契約や婚姻などのテーマをめぐって意見を交わした「民法シンポジウム～18歳で成人！？」（宮崎産経大、宮崎日日新聞社共催）では、おしなべて18歳成人に否定的な意見が目立ち、不安な心情が浮き彫りになった。

パネリストの高校生5人中4人が反対の意思を表明、「能力以上の責任を負うことになる」「メリットをあまり感じない」などを理由に挙げた。今後の焦点となる18歳未満への少年法の適用年齢引き下げについてもさまざまな意見が出た。

「たけくらべ」は背比べ。子どもたちは体と心の成長を競い合いながら、いや応なしに大人への階段を上っていくが待ち受けているのは重い責任と試練である。新しく仲間入りする18歳を手厚く出迎える社会に。2022年までの目標だ。

「くろしお たけくらべ」より一部抜粋『宮崎日日新聞』(2018年8月4日付朝刊)

- I 「民法シンポジウム～18歳で成人！？」に参加したパネリストの高校生たちが、成人年齢が18歳に引き下げられることに反対の意思を表明した理由を、文章中のことばを用いて説明しなさい(30～50字)。
- II 成人年齢が18歳に引き下げられることについて、子どもたちには重い責任と試練が待ち受けており、社会は手厚く出迎えるようにと述べているが、このことを踏まえてあなたはどうか考えるか具体的に述べなさい(400～500字)。